

組合士

アラカルト

葛飾鍍金工場アパート協同組合理事・事務局長

原

はら もとかず
元一さん

次世代の組合へ向け布石を打つ

「組合の原点に戻ることが組合存続のカギになる。この思いで組合の運営改革と組合員の意識改革に臨んでいこうと考えている」。これからの組合についてこう語るのは、葛飾鍍金工場アパート協同組合理事・事務局長の原元一さんである。

「組合のこれから」を思い悩む組合は少なくない。そして、様々な試行錯誤、模索を繰り返しながら、「やはり組合の原点に返ることだ」と気づく組合も多い。組合運営に当たる事務局であれば、日々、組合と組合員に向き合い、「何をするとどうすると、組合員のために役立つか」この問いを繰り返し、応えようと動き続けること。これが「原点」であり、これを「組合する」と表現するならば、その「組合する」ことが、とりもなおさず「組合士である」ことになる。原さんのお話を聞いてみると、その思いを強くするのである。

メッキ業界そのものの組合

葛飾鍍金工場アパート協同組合は昭和41年、メッキ業4社と研磨業8社の12社で設立されている。ユニークなのは、同組合が公害防止事業団(当時)の融資で建設された全国で2番目、メッキ業界では初の工場アパートである点だ。葛飾周辺はもともメッキ業が集積していた地域だが、次第に周囲が住宅地化していく

中、住工混在の解消、排水処理や粉塵・騒音等の公害への対応を早期に図ろうと公害防止施設を完備した工場アパートを建て、共同利用を図ったのである。

メッキ業を全般に取材していると、「戦後から昭和50年くらいまでは非常に景気が良かったが、それ以降は厳しい時期が圧倒的に多い」という話をよく聞かす。同組合もおよその流れは同様とのこと。組合設立時はメッキ4社、その中でもリーダー企業を中心に各社の体力を頼んで将来を見据えた対応を図ることができたが、その後は、メッキ業の2社が脱退、もともと個人事業規模だった研磨業8社は事業主の高齢化等で全てが廃業、現在はメッキ業2社を構成員とする組合となっている。

組合誕生と共に歩み続けて

原さんは、組合事業として行う6階建工場アパートの排水処理、電気設備、ボイラー設備、水道の4つの管理事業の一つである電気設備管理を担当する技術者として組合設立直後の昭和42年に入職した。しかし、業界の激変と共に組合も変化を余儀なくされ、「銀行に行ったこともなかった」原さんが昭和54年以降は事務局全般を預かるようになった。その間、排水処理基準など設備関係の規制・基準の変化にも対応を図りつつ、組合の事業

計画を立てたり、事業団融資の弁済計画を立てたりと、文字通り、席を温める暇もなく、6階建てのアパートを飛び歩いていた。

組合士になったのは平成元年。「取らなきや格好が付かないでしょ」と苦笑するの、そういう八面六臂で組合事業全般に当たってきた自信の裏打ちだろう。

次の10年へ向けて着々と布石

取材に伺った日の2日後には最後の償還日を迎えると教えてくれた原さん。激動の業界そのままに激動の変遷をたどってきた組合と共に歩んできただけに、「やっと」とほっとする気持ちと、「これからいよいよだ」という前向きな気持ちが入り交る、なんともうれしそうなお表情が顔には浮かんでいた。そんな完全自立を迎える新年度の目標は、経費節減による組合の財務強化だという。ただし、何でもかんでも節減ではなく、「かけるところは費用を惜しまず、しかし、事務局や組合員各社でできることは自分たちで」という自助努力で取り組む予定だ。

具体的には、「事務局にも、組合員会社にも、若い人が入ってきてほしいから、建設時のままの食堂やトイレは設備を刷新して現代的に変える」。一方で、「トイレとか階段のように共用スペースの掃除は私もやれば組合員会社のみなさんにも



協力してもらおう」と、使える「手」は使っていく方向だ。「今までどおり修理工事もやり、トイレレットペーパーの発注もしますよ」とは原さんの弁。

こうすることによって、「組合は互いに助け合い、協力し合って存続していくもの」という組合員としての意識を改めて根付かせていく、そういう意識改革を目指している。組合員は同じ釜の飯ならぬ同じ弁当屋の弁当を食べる仲間であり、同じ建物の中で、互いの景気の善し悪しも、導入設備の内容も把握し、空き設備の利用を融通しあったりしている。「これは組合本来の姿でしょう。今の時代、助け合わないと生き残れない。この助け合いの原点に戻ることが組合存続の源にもなると思っている」と原さんは「原点回帰」を強調する。

同時に、そういう組合であり続けるには、これまで原さん自身が果たしてきたような「組合の隅々まで目配り、気配りをして動き回れるフットワークのいい人材も必須」と後継人材育成を自らの課題として課し、30代の若手職員に少しずつノウハウの伝授を始めているという。

海釣りが趣味という原さん。休めればゴルフデンウィークには海で釣り糸を垂れながら、10年後の組合の姿を見据えて次に打つ布石を模索するのかもしれない。